



人との日々の出会い、関わり、つながりを大切に生きよう

第54回(2010)日本カトリック看護協会全国総会のご報告

2010年5月15日(土)、名古屋・南山学園研修センター大ホールにて第54回JCNA全国総会が開催されました。

今回の全国総会で、以前にも検討され、時期尚早として後日に検討するとされていた「全国総会」と「全国大会」の同時開催について審議され、2010年度より「JCNA全国総会」と「JCNA全国大会」が同時開催されることが決定されました。会議に参加された方々の真剣な話し合いの結果、満場一致での決議です。細かい点で今後も検討していくことが続くと思いますが、全国会員の皆さまのご協力をいただいて現代社会にあった「新しいJCNA」のために共にがんばりましょう。どうぞよろしく願いいたします。以下に総会の主な事項をご報告いたします。 会長 薄島和子

出席者(札幌)中村敦子(仙台)Sr.熊谷みわ子、(東京)西村晶子、(横浜)風間ウメ子、(名古屋・金沢)南原摩利、
宮村千草、(京都)田中宏子、(大阪)向井定子、(高松)藤田英美緒、(福岡)Sr.嘉倫子、
(長崎)Sr.石岡ヒロ子、(大分)阿南幸子、(鹿児島)松村精子、(本部)薄島和子、河野小夜子、清水みどり、
顧問司祭(本部)Fr.川上誠、(横浜)Fr.飯野雅彦、(大阪)Fr.梅原 彰、(事務局)伯川雅美

本部顧問司祭 Fr.川上のご挨拶； JCNA の名のもとにここに集い、顔と顔を会わせて会議のできるごと、この出会いの恵みとともに感謝しましょう。昨年秋の長崎でのカトリック医療団体協議会全国大会は、私たちにとって歴史的な大きな出来事であったことを誰もが実感したと思います。カトリックの信仰の光のもとで、私たちの医療奉仕の社会的な役割としての意義を深めることができました。私たちの職務は日常与えられたそれぞれの職場や関わりの中で、困難に感じられることもありますが、しかしそれにも勝る喜びと幸せが私たち自身の中に生まれます。同時にそれが周りの人へも伝わっていくことでしょう。これはつまり私たちがキリストのところに真に結ばれているということではないでしょうか。

横浜支部顧問司祭 Fr.飯野のご挨拶； 看護師の仕事は「くすりに頼らないケア、元気にさせること」であろう。人を生かす「気」を生み出すこと。

大阪支部顧問司祭 Fr.梅原のご挨拶； 我々人間は「こころ」と「からだ」が一体の、デリケートな存在である。我々は日々悩みが多いので、うまくストレスを発散して調和のとれた生活をしていかなければならないと思う。

I. 報告事項

1. 2009年度JCNA本部役員会より ～本部・薄島会長～

年間7回開催。第4回まではJCNA通信 No.10にて報告。第5～7回の主な事項は以下の通りです。

☆第5回 2010年3月28日(日) 東京・援助修道会本部修道院 集会室

1) 日本カトリック医療団体協議会 定例会議からの報告

・次回全国大会開催時期を、2012年を目標に各団体にて調整する。

- ・協議会の今後の活動に協力する。
- ・拠出金を 20,000 円に改定。
- 2) 2010年度 JCNA テーマに関連して、川上顧問司祭より JCNA がキリストにつながり、教会に繋がって成長することを、ヨハネ福音書の「ぶどうの木」の個所から深めたい。
- 3) JCNA の運営について。今後の方向性を、会長、本部役員、事務局のあり方について継続して検討していく。

☆第 6 回 2010 年 4 月 25 日(日) 東京・援助修道会本部修道院 集会室

- 1) 2012 年、医療団体協議会全国大会と JCNA 全国大会の同時開催について東京開催の可能性を検討。
- 2) 全国総会に向けて平成 21 年度(2009)決算、及び平成 22 年度(2010)予算案の原案作成。今後の財政展望と具体策を検討。
 - ・全国総会時の交通費および本部役員会の交通費について
 - ・全国大会と全国総会の同時開催の可能性について
 - ・JCNA のホームページについて(経費面からの検討)

☆第 7 回 2010 年 5 月 14 日(金) 名古屋・南山学園研修センター

- 1) 第 54 回 JCNA 全国総会プログラム、資料、運営、会場準備
 - 2) 平成 21 年度(2009)会計決算原案の確認
 - 3) 平成 22 年度(2010)会計予算案の確認
 - 4) 総会議題・提案の確認
 - 5) 本部役員選挙の準備
2. 第 1 回日本カトリック医療団体協議会全国大会について ～長崎支部・Sr.石岡～
- 第 1 回日本カトリック医療団体協議会全国大会は 2009 年 10 月 23～24 日長崎全日空ホテルグラバーヒルにて開催。3 団体関係者の多大なる協力のもと実現。昨日大会誌を各支部に発送した。とても充実した内容となっているので、読んで欲しい。これを深めることが私たちの課題と思います。感謝。

II. 審議事項

1. 本部提案事項

1) JCNA 規約一部改正について

日本カトリック医療団体協議会の発足、その活動に参加している現状にあわせ、現行規約第一章 第 4 条に「2 本会はカトリック医療団体協議会に加盟し、その活動に参加する」という条文を追加する。⇒ 満場一致をもって承認。

2) 第 53 回(2011) JCNA 全国大会 開催について

⇒ 開催地は福岡支部 熊本となることが確認された。

3) 第 54 回(2012) JCNA 全国大会 開催について

⇒ 東京支部の快諾により、東京開催が承認された。

4) 第 55 回(2013) JCNA 全国大会 開催地候補について

⇒ 仙台支部が立候補し、満場一致で承認された。

5) 第 2 回日本カトリック医療団体協議会全国大会 開催年について

「定例会議」報告にもあったように、「3 年毎」という意見が多く、本部役員会において

もそのくらいが妥当ではないか、という意見である。本総会の意見を求めたい。

⇒「3年毎でよい」、という意見が出され、満場一致をもって承認された。

7月24日の定例会議にJCNAの意見として提出することとする。

また、定例会議にて決定すれば、JCNAとしては東京支部が受諾した年、2012年の開催が長崎大会のような合同大会となる可能性が高い。この旨も東京支部として了解された。

2. 平成21年度(2009)JCNA会計決算及び監査報告

総会資料(p42)にもとずき、会長より説明が行なわれた。監査報告がなされ、満場一致で承認された。

3. 平成22年度(2010)JCNA会計予算について

本部より提案された予算案の検討に先だって、本部役員会より次の3項目について提案がなされ討議が行われた。

<1>平成22年度(2010)より総会に出席する本部役員の交通費の支給を半額とする

<2>平成23年度(2011)より総会出席者全員の交通費支給を半額とする

<3>平成23年度(2011)より「全国総会」と「全国大会」を同時開催とする

本部提案に対する主な意見

- ・本部役員の交通費は、全額支給されるべきと考える。その分役員会の回数を減らす努力や、総会と大会の同時開催によって経費節約を図る努力がされるべきと考える。
- ・インターネット活用として、具体的には「skype」について考えてみたが、実際に会議ができるかと言う点でまだ問題が多々ある。また、役員を引き受けられる人の候補がかなり狭まってしまうことは問題。

Q. 以前にも総会と大会を同時に行なうことが検討されたが、その時に否決された理由は？

A. 例年、大会の開催時期は秋で、総会は会計年度を踏まえて5月。同時に行なうとなれば場所も時期も毎年動き、定まらない。また、同時開催だとスケジュールが詰まり、これまでのように十分時間をかけた討議はできない、等々課題が多く、まだしばらくは変更せずにおく、として現在に至っている。

真剣な審議の後、以下のように決議された。

《1》 平成22年度(2010)より本部役員の交通費の半額支給については否決。

《2》 平成22年度(2010)より全国総会と全国大会を同時開催することが満場一致で承認された。

《3》 会計年度は9月1日から8月31日とすることで意見の一致をみた。

《4》 平成22年度(2010)会計予算は、《1》を全額支給に変更し、満場一致で承認された。

《5》 《3》の会計予算については、《1》の変更分と合わせて追加予算を組み(2011年4月1日から8月31日までの分)金沢大会開会時(2010年10月29日)に臨時全国総会を開催、決定することとした。

4. 本部役員選挙

現役員四名全員が信任されました。(Sr.沢禮子、津波古澄子、河野小夜子、清水みどり)どうぞよろしく願いいたします。

5. 支部報告 ～各支部長より～

総会資料の支部報告にもとずき分ち合いが行なわれた。

6. 第52回(2010)JCNA全国大会について ~名古屋支部・金沢グループ~

すでに参加申込みの受付を開始しているので早めに申し込みをお願いします。

その他案内資料の配布。

7. CICIAMS アジア大会(シンガポール)について = 日程2010年9月3日~5日

日程以外のニュースは届いていない。例年、案内が届いてから申込み締め切りまでがとても早く機を逃してしまう可能性があるため、参加希望の方はあらかじめ国際渉外担当の Sr. 沢(札幌・天使大学内)にお知らせしておくようにお願いします。

8. ミサ チャペルにて

飯野、梅原両顧問司祭による共同司式、説教は梅原師が担当されました。

主の復活祭の喜びを祝ってきましたが、明日は主の昇天祭です。

父のもとからこの世にいられたイエス・キリストは父なる神のみ旨を私たちに語り、神の救いのみ業を成し遂げて、父のもとに帰って行かれるその帰りにあたってイエスは、自分の心の中を弟子たちに語りかけてくださった、その言葉が今日の福音に描かれているわけです。あなた方は「これからは私の名によって願いなさい」とこのように呼びかけておられます。

丁度一年ほど前だったでしょうか、教会の電話が鳴り、「姉が危篤になっていますので病院にいらしてくださいでしょうか」という電話でした。司祭にとってそうした緊急の電話があるときには何を差し置いてでも飛んでその病人のそばへ行くわけです。私もその時に行きました。妹さんが出迎えてくださって病室に案内してくださったのですが、ICU病棟で、病名は知らなかったが危篤であることは間違いない。そのベットに横たわっていらっしゃるお嬢さんが、本当にもう無理かなと思われる状況でありました。病者の塗油を授け、もうご聖体をいただくような状況ではありませんでした。終わって病室を出て、その時妹さんが「実は医師から通夜・葬儀の準備をするようにと言われているのです。教会での葬儀屋さんをお願いしていいのでしょうか」というようなことであつたので、葬儀屋さんの会社の名前と電話番号をお知らせして、「もし万が一のことがあつたら教会にまた電話をください」と、このようにして別れました。非常に心配で教会にいつ電話がかかってくるだろうかというような思いで私も待っていましたが、何の連絡もありませんでした。「良かった、今日は電話がかかってくなかつた」と。あくる日も思い、一週間位経ってからその妹さんから電話があり、「姉は助かりました。ICUから出て病室に移りました」と。「医師からもう駄目だと言われていた人がよくなった」「医師も不思議がついてた」と、そのような言葉を妹さんから聞きました。病者の塗油を受けて医師も全力を尽くして医療・看護にあつてくださったのだと思いますが、時々私たちは人間の力を超えた偉大な力が病人に働きかけて、その危篤状態から回復に向かわれるというようなことを経験いたします。そういうことを経験する時に「あー、やはり神様はいらっしゃる。そして時々そのような恵みをくださるのだ」ということを感じます。「願いなさい、そうすれば与えられる」と。

精神的な病いを癒すだけではなく、病者の塗油はまさに肉体の健康をも与えてくださる恵みであるということを感じます。神様はおられる。働いておられる。私たちも看護師としてそれぞれ患者さんやおとしよりと関わっていく中でもうだめかなと思われる時もあるでしょう。しかしその患者さんのために病人のために祈ってあげること、『祈る心』を私たちは決して忘れてはならないと思います。手当をする看護師として祈る心で接するということがいうまでもありませんけれども、私たちが病者と関わりを持つ中であつて、本当にこの人、この患者さん、あるいは病人が、私に与えられた兄弟姉妹であるというような深い信仰の心を持って祈って関わっていくということが、私たちに求められているということはいふまでもありません。

復活されたキリストがいつも私たちを見つめ、支え、また力を与えてくださいます。そしてまた次の日曜日には聖霊降臨。聖霊が弟子たちの上に降ることによって、弟子たち自身が本当にキリストを信じるもの、本当にキリストを生きる者として勇気を持って命がけで宣教にでかける人になりました。

私たちも現代に生きるキリスト者として、看護師として、本当にキリストをイエスと聖霊の導きに従って、より良くお年寄りや病人と関わっていくことができますように、その恵みを主に祈り求めたいと思います。